

【日資連HP・トピックス掲載用】

平成21年9月18日
日本再生資源事業協同組合連合会
業務委員会 回収部会・調査

札幌市雑がみ回収 7月から開始 ―経過報告―

札幌市の雑がみ回収については、本欄でも取り上げ警告を出していたが、この7月から開始してその結果が伝わってきた。

9月11日付の北海道新聞の記事などによると、予想通り問題が噴出していると言う。回収した雑がみは、中沼雑がみ選別センター（14億円で新設）と札幌市製紙原料事業協同組合加盟の古紙問屋6社・10ヤードに搬入される。7月は、市のセンターに1050トン・札幌協6社に812トン入っている。

市は、雑がみの基準を緩めて「紙類なら何でも良い」としたため、集団回収を優先しているにもかかわらず、大量の新聞・雑誌・段ボールが混入し、特に段ボールが絡み合っただらや不燃物残渣、禁忌品に属する紙や汚れた紙の選分が厳しくなり、固形燃料に回るモノも多い。また、製紙原料として引き取られたモノも再選別の必要があり、使われずに積み上がっている。

市は、「センター内の見学は危険である」と拒否しているようだが、ごみ袋を利用して回収しているためか、生ごみはもちろん紙おむつや動物の死骸さらにはローラースケートなども混ざっていて、窓の無い建屋は劣悪な労働環境になっているらしい。

札幌市資源リサイクル事業協同組合は、先ずごみ有料化後の雑がみ回収が集団回収などにどのように影響しているのか緊急アンケート調査を実施する準備を進めている。

入札に参加して対応している製紙会社や古紙問屋も「改めて雑がみ回収のあり方を見直してはどうか」と提案している。

今後の成り行きを注目して行きたい。